

# 学術情報リテラシー教育入門

## ー学習支援としての図書館サービスー



琉球大学附属図書館  
情報サービス課企画グループ 上原恵美

平成20年度大学図書館職員短期研修  
京都大学：10月 8日（水）  
東京大学：11月11日（火）

# 今日お話する内容

---

- 1 はじめにー情報リテラシー教育の一例ー
- 2 図書館と情報リテラシー
- 3 大学における情報リテラシー教育
- 4 大学図書館の挑戦
- 5 おわりにー鍵は教員との協働ー

# 1 情報リテラシー教育の一例

---

## ①-1 琉大図書館の例（-内容-）

### モデル提案タイプ：図書館から実施内容を提案

#### ガイダンス（実習なし）

図書館HP利用案内＋OPAC・WebcatPlusのデモ＋館内ツアー（30分）＝60分

#### 入門編：図書資料検索および館内ツアーでの資料配置確認（学部1・2年次向け）

図書館HP利用案内・OPAC・WebcatPlus（60分）＋館内ツアー（30分）＝90分

#### 活用編：主として国内雑誌論文の検索から入手方法まで（学部3年次以上向け）

OPAC＋WebcatPlus＋データベースCiNii＋ILL＝90分

#### 応用編：外国雑誌論文の検索から入手方法まで（卒論生・大学院生向け）

Web of Science等それぞれの専門にあったデータベースの実習＋電子ジャーナル＋ILL＝90分

# 1 情報リテラシー教育の一例

---

## ①-2 琉大図書館の例（-内容-）

### **科目関連タイプ:授業展開の一部に図書館職員が協力**

#### **情報科学演習**（共通教育科目-情報関係科目1～4年次向け）

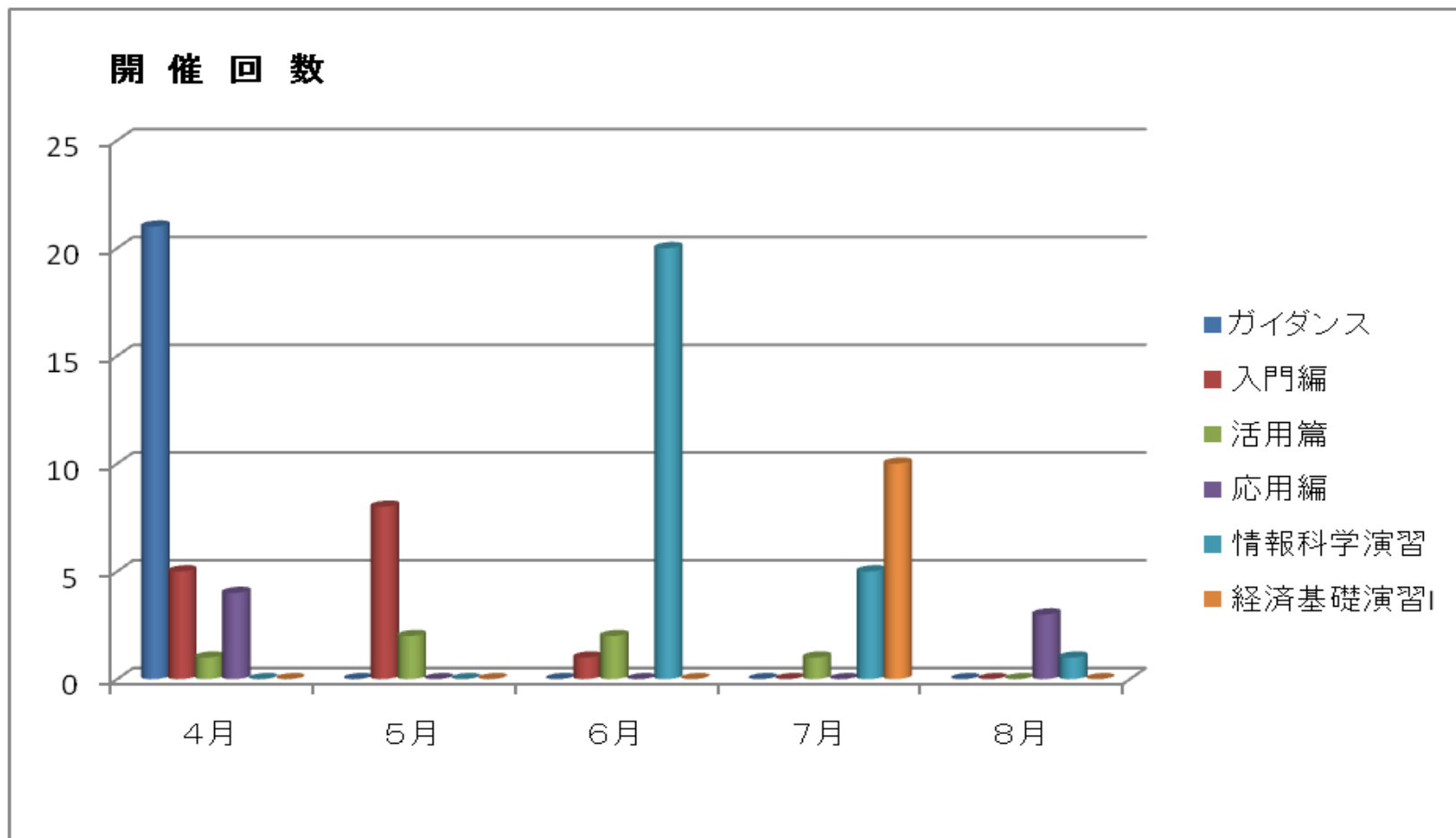
OPAC・WebcatPlus + ILL(説明のみ) + データベースCiNii = 90分

#### **経済基礎演習 I**（法文学部総合社会システム学科経済専攻1年次向け）

OPAC・WebcatPlus + ILL(説明のみ) + データベースCiNii + 新聞データベース  
= 90分X2回

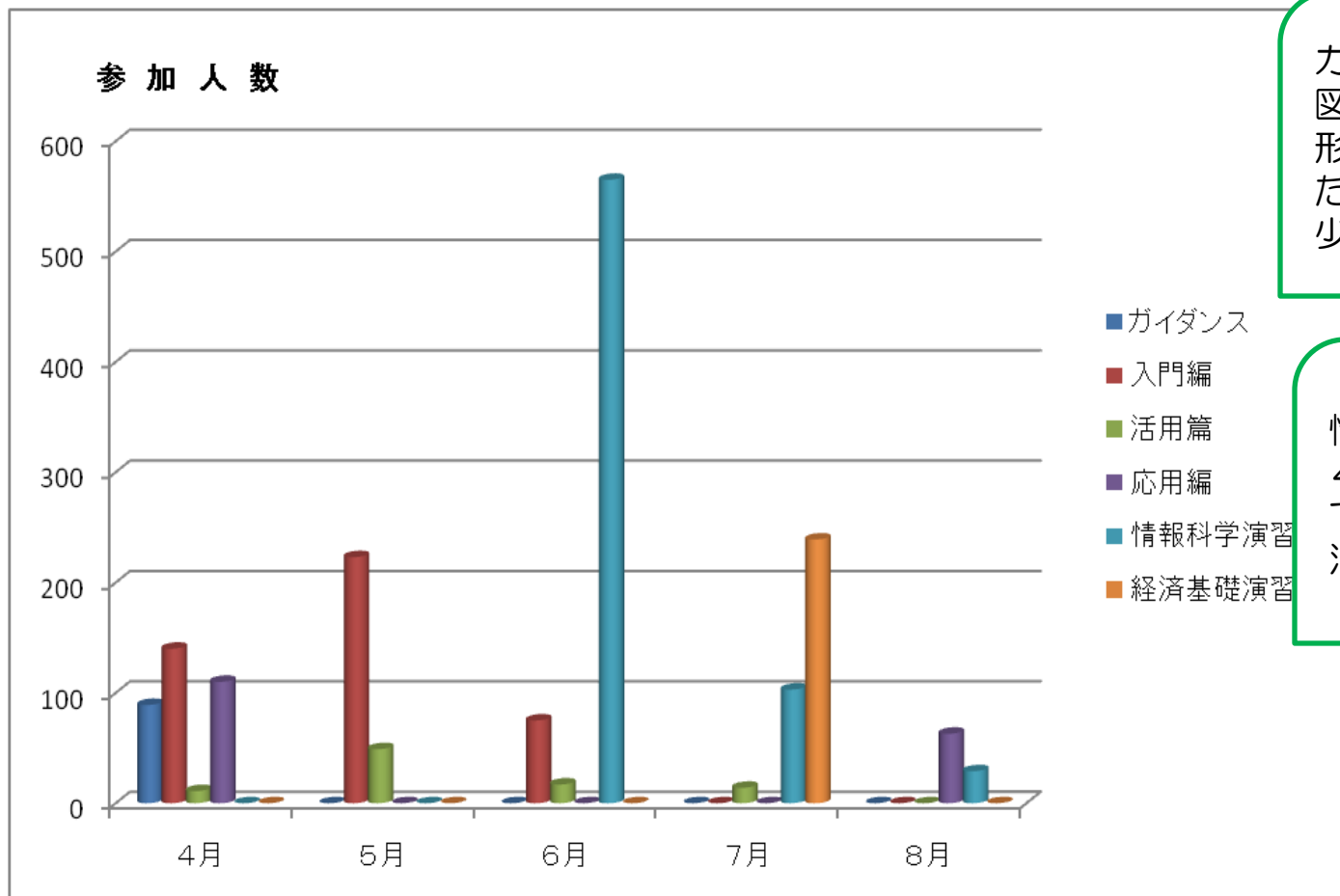
# 1 情報リテラシー教育の一例

## ②-1 琉大図書館の例(平成19年度の実績-開催回数-)



# 1 情報リテラシー教育の一例

## ②-2 琉大図書館の例(平成19年度の実績-参加人数-)



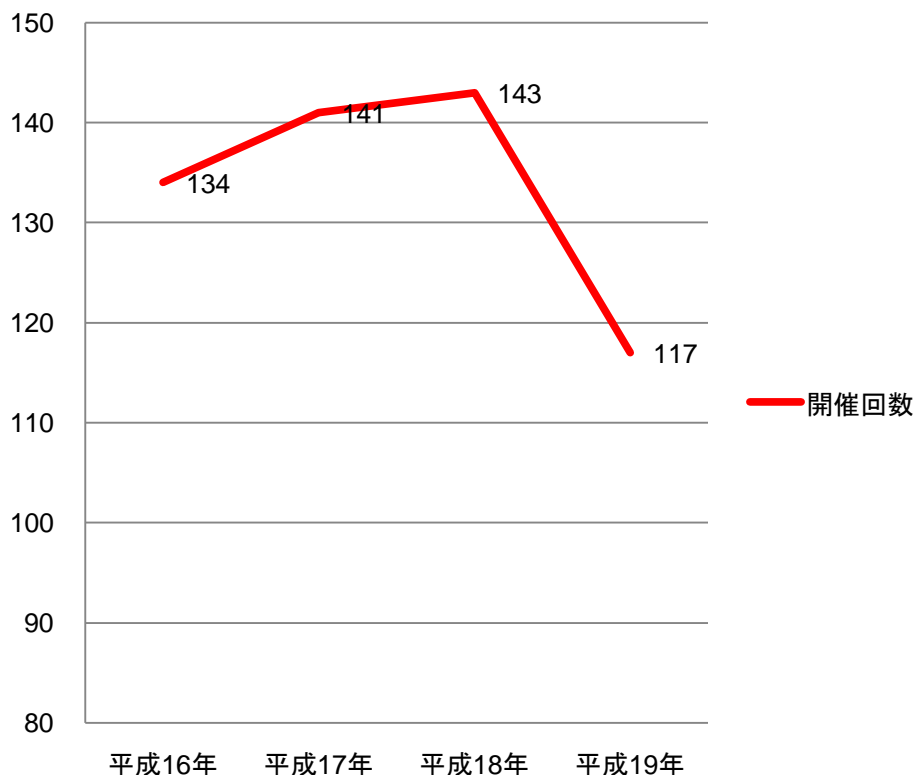
ガイダンスについては、図書館主催の自由参加形式のためか、1回あたりの開催の参加者が少ない！

情報科学演習は年間約40クラス実施。2人で実施するので体力の消耗が激しい！

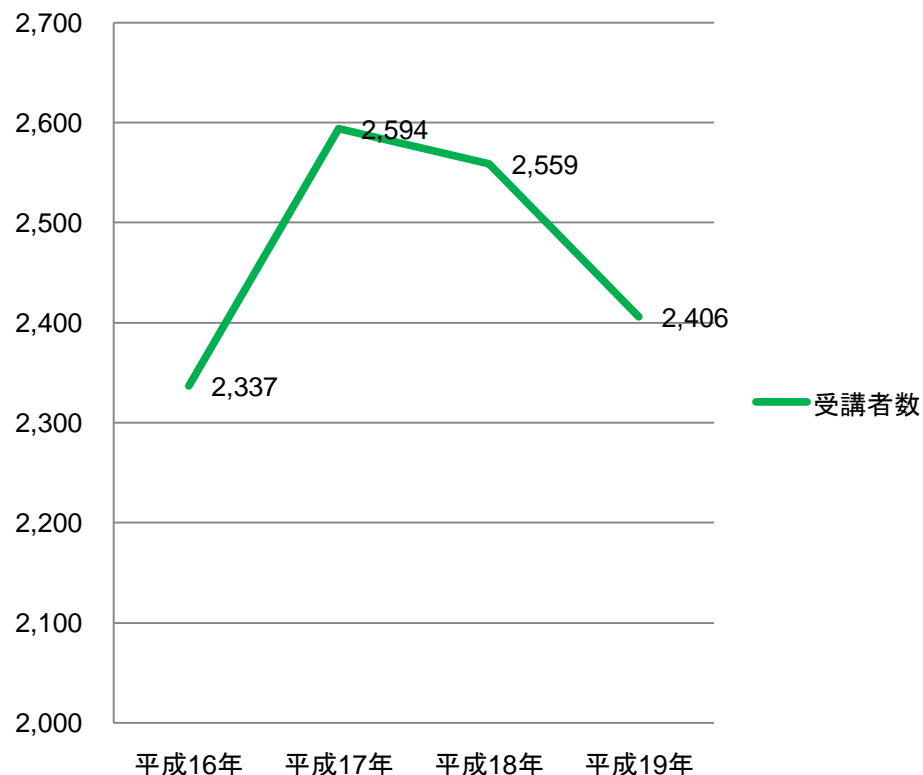
# 1 情報リテラシー教育の一例

## ③ 琉大図書館の例（講習回数と受講者数の経年変化）

開催回数

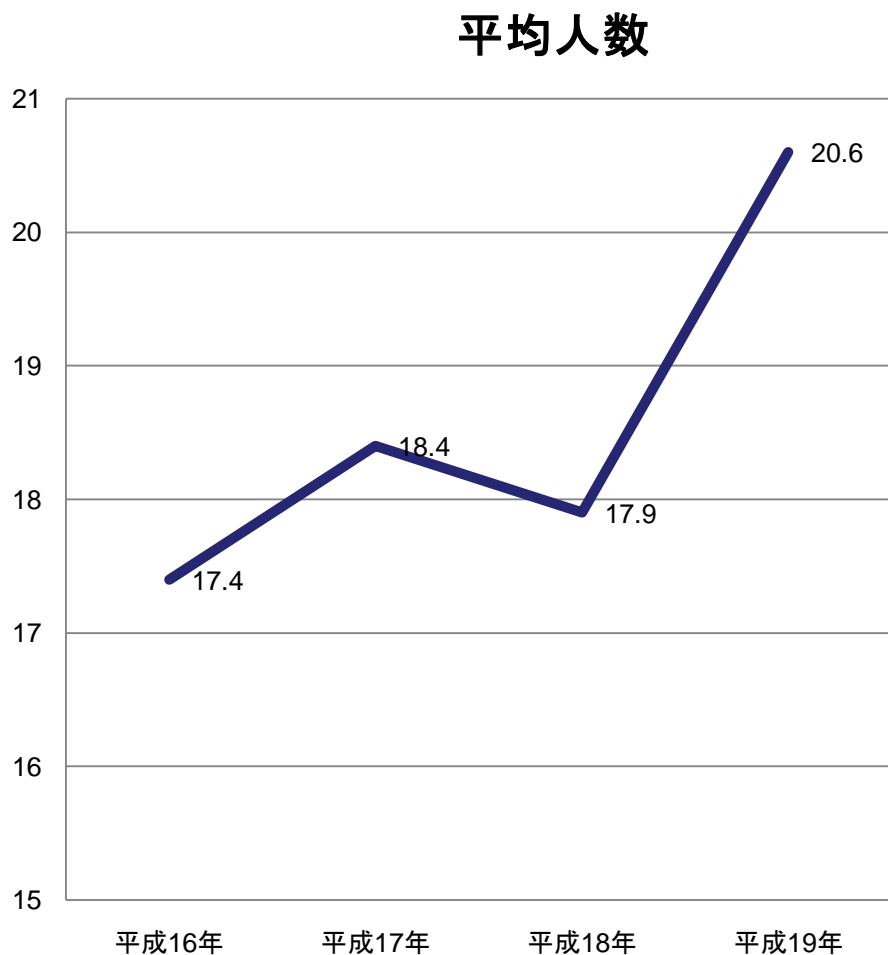


受講者数



# 1 情報リテラシー教育の一例

## ③ 琉大図書館の例（講習回数と受講者数の経年変化）



開催回数の増加はウレシイ！



しかし・・・

グループ制など組織統合や改編

・グループ当たりの業務量増加

・内容改善のサイクルをどう確保？

— 平均人数



実施効率を上げる必要があった



## 2 図書館と情報リテラシー

---

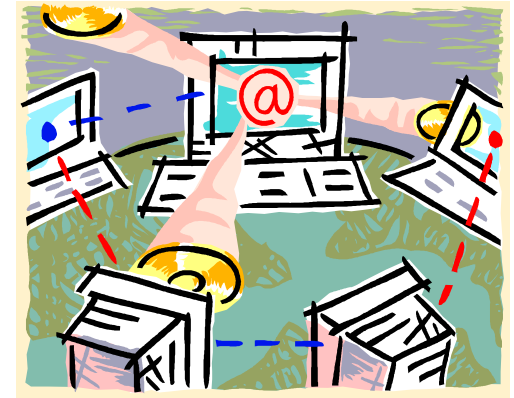
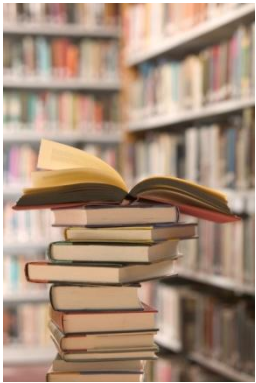
### ①「学習」は情報を得ることから始まる

- 「知りたい！」(モチベーション) → 情報活動へのスイッチ
- 「学習」の成果はモチベーションの有無と、「**主体的**」な情報活動能力にも左右される

**学習スキルとしての情報リテラシーを身につける**

# 2 図書館と情報リテラシー

## ②さて、図書館は…



学習メディアの多様化 → ハイブリッド・ライブラリーへの変化

学習メディアの多  
様化

情報アクセスの  
拡大



図書館は多様な  
情報にアクセス可能な  
学習する空間

## 2 図書館と情報リテラシー

---

### ③ 学習と図書館の関係

図書館は**学習空間**として存在

それゆえに・・・

- 教材、情報アクセスを保証する必要性
- 学習の進捗を適切にサポートするための機能が必要

一方、学習(学術)情報は・・・

- 以前は図書館に偏在(「**かたよって**」存在)していた
- しかし、今や図書館以外にも遍在(「**あまねく**」存在)している

# 2 図書館と情報リテラシー

---

## ③「学習」と図書館の関係

だからこそ、図書館は学習の・・・

- 「案内人」、「道しるべ」、「コンサルタント」として機能できるかも！
- 情報リテラシーを身につける教育への参加が可能なのかも！

### 3 大学図書館における情報リテラシー教育

---

#### ① 情報を主体的に使いこなす能力を育むためには

問いかけとして…

データベースなどの図書館資料の利用法、操作法を教授することが情報リテラシー教育か？

琉大図書館の現状から

図書館の内部的事情を反映したもので、全学的観点からは情報リテラシー教育とは言えないのではないか。

- 図書館資料の利用率アップを意図
- 図書館の存在意義のアピール

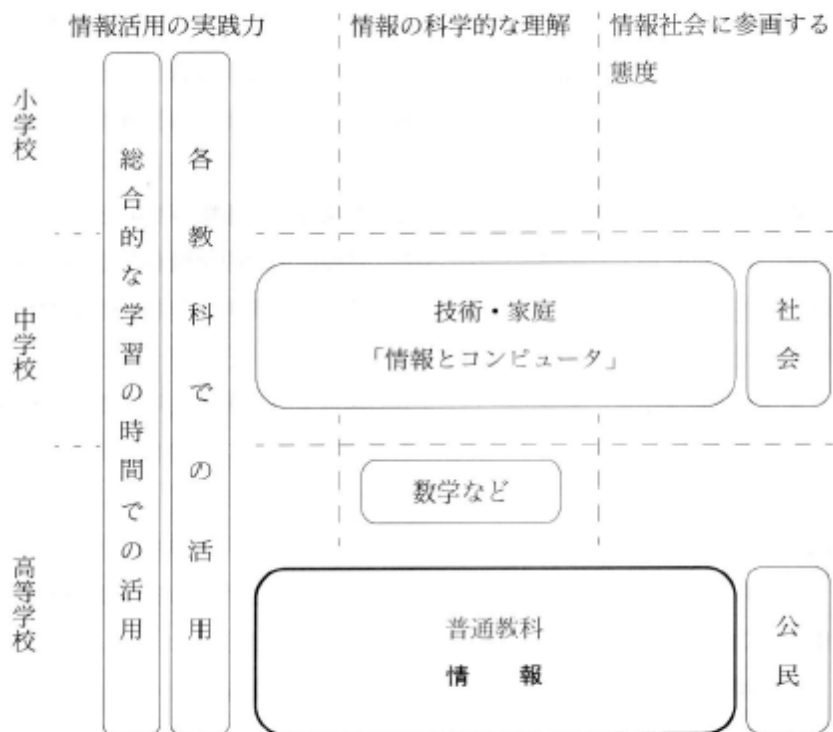
# 3 大学図書館における情報リテラシー教育

## ② 「大学」入学以前の情報リテラシー教育

### 高等学校 教科「情報」について

(文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』平成17年5月一部補訂1版 p.20より)

情報教育の体系化のイメージ



### 懸念事項

- 学生間で技術・知識・能力に著しい格差が生じているのではないか
- 情報整理・表現活動の重視がある反面、プレゼンの中身を吟味したり、比較や裏付け情報の収集などの学習が軽視されていないか
- インターネットなどの多用により、図書館資料のような印刷メディアなども用いた多様なメディアを使い分ける、組み合わせ使いこなす学習が軽視されているのではないか

# 3 大学図書館における情報リテラシー教育

## ③ 大学生の情報リテラシー教育

### 「高等教育における情報リテラシー能力の基準」 (米国大学図書館協会)

情報リテラシーを備えた学生は、

基準1:必要とする情報の性質と規模を把握できる。

基準2:必要とする情報に効果的・効率的にアクセスできる。

基準3:情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を学生の知識ベースおよび価値体系に組み込む。

基準4:個人でまたはグループのメンバーとして、特定の目的を成し遂げるために効果的に情報を利用する。

基準5:情報利用にまつわる経済的、法的、社会的な多くの問題を理解し、情報に倫理的に、法的に正しくアクセスし、利用する。

### 3 大学図書館における情報リテラシー教育

---

#### ④ 「学習」の現場：大学を考えた場合

大学では、

「確かな情報」、「理論的に説得力のある事柄」を下敷きに、新しい創造的な考えを構築、発信することが求められる

**レポートや論文作成などで求められる**

＝情報の主体的活用の上に成り立つ一連のプロセス



# 3 大学図書館における情報リテラシー教育

---

## ⑤ 「学習」の現場を支援する

レポートや論文を作成するプロセスにおいて情報リテラシーが開発されると考えるのが合理的か？

- レポートや論文を作成するプロセスにおいて、「図書館ならではの」情報リテラシー教育として関わる
- 情報リテラシー教育を支える組織は、図書館だけではないと自覚すべき

**重要なこと！**

カリキュラムやシラバスを知り、教員との協働を心がける

# 4 大学図書館の挑戦

## ① 情報リテラシー教育に取り組む大学図書館

- 2006 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)(科学技術・学術審議会)で大学図書館の**教育支援サービス機能**の強化項目の一つとして明記
- 2007 筑波大学「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書-教育と情報基盤としての図書館-(文科省『先導的<sup>1</sup>大学改革推進委託事業』)では、**教育基盤としての今日の大学図書館**をとらえるための視点の一つと明示

「情報リテラシー教育」は、  
図書館活動の**重要なキーワード**として定着

# 4 大学図書館の挑戦

## ② 本学の試み：些細な一例として

### 教員と協働した事例

「政策情報基礎演習」 法文学部 政策科学・国際関係論専攻 1年生必修授業(56人)

[スケジュール]

日にち	内容
4月15日	(1) イントロダクション：大学で学ぶスキル
4月22日	(2) 図書館ツアー[1]：調べる[1]図書館の本
4月29日	休日
5月6日	休日
5月13日	(3) 図書館ツアー[2]：調べる[2]図書館の論文
5月20日	(4) 図書館ツアー[3]：調べる[3]図書館の情報検索
5月27日	(5) 情報を整理する
6月3日	(6) 読む
6月10日	(7) まとめる
6月17日	(8) 批評する
6月24日	(9) レジュメをきる
7月1日	(10) プレゼンテーション[1]
7月8日	(11) プレゼンテーション[2]
7月15日	(12) ライティング[1]
7月22日	(13) ライティング[2]
7月29日	(14) ライティング[3]
8月5日	(15) ライティング[4]

### 事前に教員と数回にわたる打ち合わせ

- 面談とメールによる打ち合わせ
- 教員は米国流の大学初年時教育の”writing”の授業をイメージしていた
- 「図書館ツアー」ではツアーと図書館職員による講義、課題実習を組み合わせて実施
- 多人数なのでグループ分けをして、PC実習室、ツアー、閲覧室での課題実習を教員、TA、図書館職員が同時進行した。
- 「図書館ツアー」の3コマ以降の授業中でも、実習時間は適宜教室と図書館の行き来を教員が指示していたらしい

[課題 2] 政治学・国際関係論に関して、あなたが学びたい内容を含んだ研究図書を 1 冊、論文を 1 本、入手しなさい。その上で、①入手した文献の書誌情報、②概要、③その文献を元にして、さらにどのような文献を入手すると、知識を深めることが出来ると判るか、以上をまとめてレポートする。

[課題 3] 政治・国際関係論専攻の教員のうち、ひとりを選び、その教員が執筆した著書ないし論文を入手しなさい。その上で、今度は逆にその著書・論文を検索するとしたら、どのような検索語が必要だろうか。想定されるキーワードを 10 個挙げなさい。

### **図書館職員担当部分では、**

OPACの読み方（書誌情報の読み方）、引用文献の意味と意義の解説、学術雑誌のブラウジングの意義とブラウジングの方法、機関リポジトリと本学の研究者総覧の紹介、レファレンス資料（冊子やWebの辞事典・人名辞典など）の使い方について、資料を用意した。

#### [課題 4]

①課題 2 で入手した文献で言及されている事件・事象をひとつ採り上げ、それについて報道された新聞記事のコピーを入手しなさい。

②課題 2 と 3 で入手した文献と同じテーマ、イシューを扱う文献を探し、リストアップしなさい。

③今日までの課題に取り組むなかで出てきた重要語句・重要人物のなかから 5 つ選び、解説しなさい。その際には、解説するために利用した参考文献を明記すること。

### **図書館職員担当部分では、**

新聞記事データベース、新聞の縮刷版、WebcatPlusの連想検索、Webサイト「想 (IMAGINE)」(異なるメディアを横断検索)、論文データベース使い方について、資料を用意した。

# 4 大学図書館の挑戦

## ② 本学の試み：些細な一例として

<「考える講義」を目指して>

「情報科学演習」全学共通教育科目 1～4年生 年間約40クラス

1コマ(90分)で図書・雑誌の探し方(OPAC、分類記号の話)、CiNiiや電子ジャーナルの紹介、ILL手続きをガイダンスする

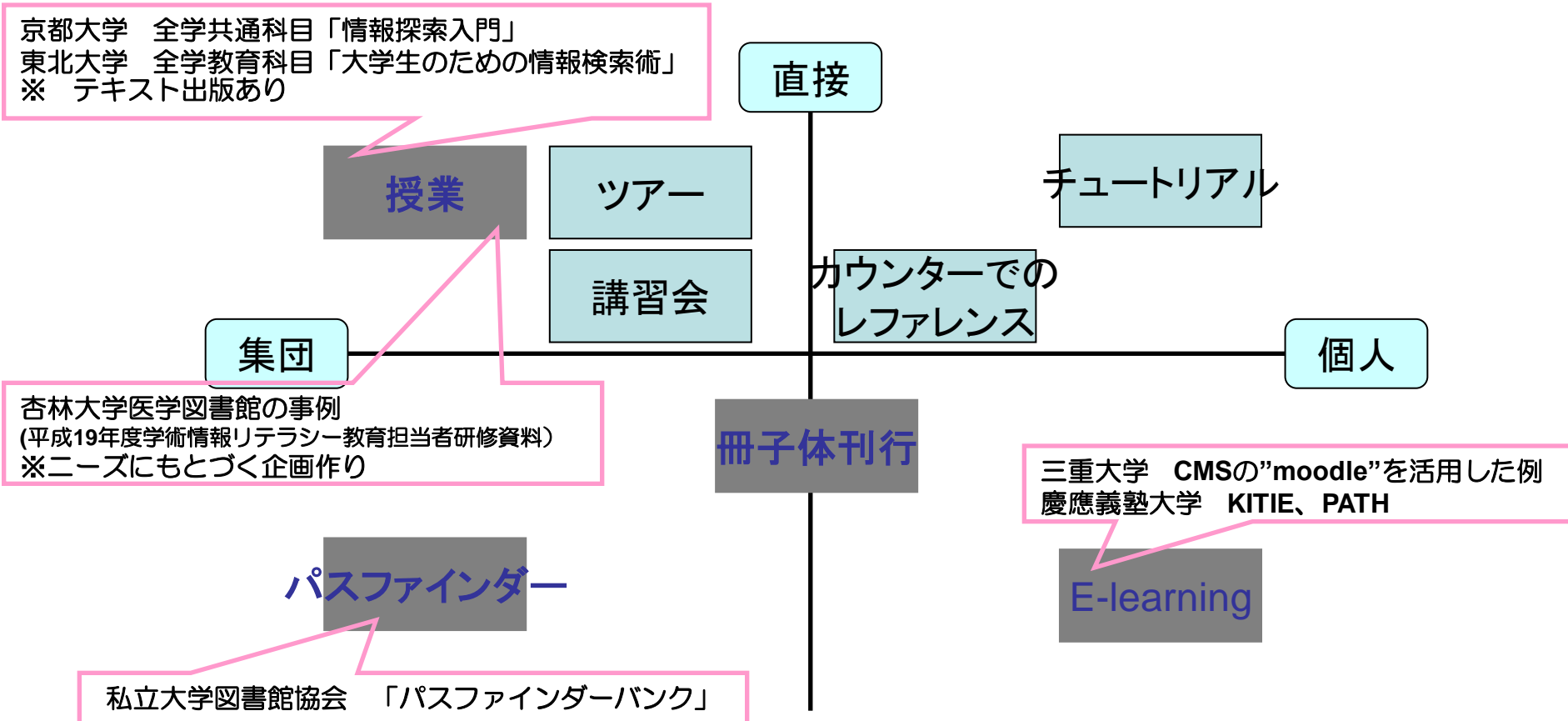
### ー考えさせる「つぼ」ー

- 出版年により配架場所が違う→OPAC検索結果を出版年順に並べ換え→検索結果の出版年の項目を読み取れるようにする
- ある著者の著作一覧を表示させて、どのような分野を専門とする人物かを推察させ文章化させる
- WebcatPlusの連想検索でキーワードを捨てる→自分で思いつかなかったものをメモさせる→論文検索でも同じキーワードで検索させる→同じテーマで複数の情報源を検索させ、それぞれの情報の特性に気づかせるきっかけを作る
- 課題の詳細な条件は、プリントに記入せず口頭で追加する→講師に集中させメモを取らせる

# 4 大学図書館の挑戦

## ③ 他大学の代表的な事例

平成19年度 本研修「学術情報リテラシー教育入門」資料より引用



# 4 大学図書館の挑戦

## ④ 考えられる様々な学習支援

### ラーニング・コモンズ

- 総合的な学習環境の提供であり、情報リテラシー教育もこのスキームの中で位置づけられる
- 実現に向けては学内各組織との連携・協働が不可欠

### 図書館に学生を呼び寄せる企画

- 各種企画展示
- 学生参加(選書、企画展示、ボランティア、発表会、etc.)

### レファレンスサービスとの連動

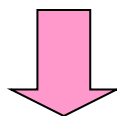
- 利用者の「問題状態」(データベース操作法や資料入手法を知らない状態など)の受け手としてだけでなく、課題解決に向けての「目標状態」に遷移させるカウンセラー的情報リテラシー教育とは？(「レファレンスサービスの仲介的機能のレベル」  
(Kuhlthau, C.C., 2004)の理論を下敷きに)
- 「学習現場のニーズに寄り添った」情報リテラシー教育の方向性とは？

# 5 おわりに

---

## ①学習の現場とコミュニケーションする(教員との協働1)

- モチベーション（いわゆる「授業」）あつての情報リテラシー教育
- カリキュラムの研究
- シラバスの研究（参考資料は何か、資料選定、蔵書構成は適切かを確認）
- 学生や教員の学習・教育上のニーズ調査（学習環境にも気を配る）
- 自分の図書館の研究（自前の情報資源を知る）



**教務業務への関心  
選書力の強化と蔵書構成への関心**

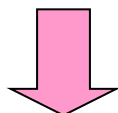


# 5 おわりに

---

## ①学習の現場とコミュニケーションする(教員との協働2)

- 情報リテラシー教育を支える組織は学内に散在
- 大学内での体系的な情報リテラシー教育の中に図書館を位置づける



**図書館の「戦略」が問われる**

# 5 おわりに

---

## ②人材開発

- 教材作り、パスファインダー作りは情報リテラシー教育担当の人材開発の手段として有効
- 情報リテラシー教育のプレゼンは、図書館業務や「図書館員とは何を提供できる職種か」の説明責任を兼ねる！

# ご静聴ありがとうございました

---

## 以下の資料を参考にしました・・

安藤誕,井上真琴「インターネット時代の”レファレンスライブラリアン”とは誰か？」情報の科学と技術 58(7)(2008)p.329-334

上原恵美「大学図書館とe-learning」大学図書館研究 No.68(2003) p.45-57

杏林大学医学図書館「平成19年度NII学術リテラシー教育担当者研修」配付資料(2007)

齋藤泰則「デジタル環境の進展による図書館と利用者との関係の変容:レファレンスサービスの仲介的機能の展開を中心に」情報の科学と技術 57(9)(2007)p.429-433

筑波大学「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書:教育と情報の基盤としての図書館」(2007.3)→ [http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/spons\\_report/future-library.pdf](http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/spons_report/future-library.pdf)

東北大学附属図書館「平成19年度NII大学図書館職員短期研修」配布資料(2007)

野末俊比古「平成19年度NII学術リテラシー教育担当者研修」配付資料(2007)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 情報編」平成17年5月一部補訂(2005)

米澤誠「研究文献レビュー:学習・教育基盤としての図書館」カレントアウェアネス No.296 (2008.6.20)